

友未鬼君

昭和十二年丁丑春

松岡子書



東海



兒戲に似んとて春風に没頭す

松岡子

曉方北東風なりぬ

山を漕ぐ稿

松岡子

黙りのひびく音なりを雀は存

松岡子

鴛鴦図彩は好あり 爐は名残

松岡子

薔苔なん別れぬ霜の朝に掃ぬ

松岡子

沙風を送る淡雪青も茶も

松岡子

玉燕と雛梅の春をみまかりけり

松岡子

雁去好あり 垣のふれに芽ぐさなり

松岡子